



自活だより



令和4年度 鹿児島聾学校
自立活動係 N o .5

きゅうちょうけんふくおかたいかい さんか 九 聴 研 福 岡 大 会 に 参 加 し て き ま し た ！ ！



11月4日(金)・5日(土)に行われた「第27回九州地区聴覚障害者教育研究大会福岡大会」についてレポートいたします。福岡県の聾学校は、聴覚特別支援学校と呼ばれています。幼稚園から中学部までの福岡聴覚特別支援学校は学校周辺の市や町に住む幼児児童生徒が登校し、隣には、高等部だけの福岡高等聴覚特別支援学校があります。この福岡高等聴覚特別支援学校は、福岡県に数校ある中学部までの聴覚特別支援

学校を卒業した生徒が入学する高等部だけの聴覚特別支援学校として
全県から、登校したり、寄宿舎で生活したりしているようでした。

11月4日(金)は、福岡聴覚特別支援学校で授業公開がありました。



図1

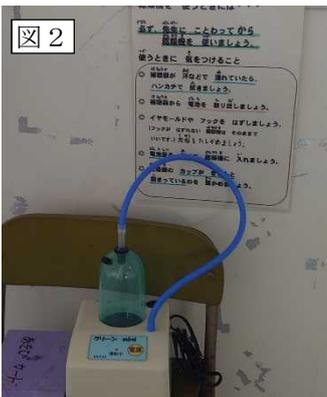


図2

本校の幼児児童生徒と同じように来校者の私が
来たら、キョロキョロと興味深く見つつも手話
で挨拶をしてくれました。やはり、どんな状況
でも挨拶をしてもらえるとうれしかったです。図1は何か？わかりますか？
答えは・・・パトライトです。本校のシグナルタワーと同じ役割で、シンプルな2
色。授業中の緑ランプ点灯と非常時の赤ランプでした。なので、すべてが消え
ているときは休み時間ということになります。

他にも汗で濡れた補聴器を乾燥させるための機械(図2)が廊下のあちこちに設置
してあり、児童生徒は自らの判断で操作できるようにしてありました。

5日(土)は、福岡高等聴覚特別支援学校で授業公開や講演会、シンポジウムがありました。高等部生だけが
在籍する学校。静かで落ち着いた雰囲気の中、学習が行われていました。前日の福岡聴覚特別支援学校も
高等聴覚特別支援学校も本校と同じように授業では、電子黒板やパソコン、拡大投影機、生徒たちは
タブレット型パソコンを操作しつつも、従来ながらのノートや教科書、教師の教材教具や具体物を使って学
習している様子がありました。本校よりも何年も前から生徒一人一台のタブレットが配置されている学校
らしく、授業の場面では、必要なときに必要な方法でパソコンを操作している姿がありました。

ちょっとだけ・・・



先日は、鹿児島市内の高等学校の先生が本校にて2日間の研修をされ、高等部の教育について説明を受け、
実際の授業を見学し、自立活動の話聞き、聴力検査の体験をしました。「自立活動」「聞こえない」「聴覚
障害」など初めて聞く言葉に新たな発見があるようでした。給食中は、近くにいた本校職員に通訳してもらい
生徒たちと楽しくいろいろな話をしていました。昼休みは体育館で卓球を生徒たちと楽しむ姿もありました。互い
にコミュニケーションをとりたい気持ちがあれば豊かな時間をつくって、共有できるんだなあと思いました。

しょうがくぶ じりつかつどう 小学部の自立活動について

今回は

小学部の自立活動の指導の一部を紹介します。

○ 語彙を増やすために！ ～季節や行事の話題～



かえる 蛙になるのはどっち？ 指文字で確認



〇〇の秋(あき)と言えば...

小学部では1時間目が始まる朝の時間を使って言葉に親しむ学習を行っています。児童集会では季節や行事に関する言葉をクイズ形式等しながら、集団の中で言語活動の充実を図っています。平仮名を覚え始めた1年生から高学年と実態差はありますが、手話・指文字・書き言葉・音声と複数の方法で言葉を押さえ、語彙の拡大をねらいとして学部全体で取り組んでいます。

○ 思考力・表現力を高めよう！ ～これは何でしょう？～

左のシートの真ん中に入る言葉は何でしょう？ある児童が考えた問題です。周りのヒントを参考に考えてみてください。これはある言葉から想起したことをどう表すか、思考力・表現力を高めるために行っている学習です。自分の知っている言葉を使って答えを導き出すためのヒントを考えます。助詞の使い方を確認する良い機会にもなります。

○ 自分のきこえや障害について考えよう！ ～3月3日 耳の日行事～



小学部では、毎年3月3日の耳の日にちなんだ聴覚障害のある先輩の話を書いたり、自分のきこえや障害について考えたりしています。学年を重ねるごとに、児童の気づきも広がってきています。右記は昨年度の作品です。今年度の冬休みも、ポスター、標語、絵日記、作文等を課題として出します。児童の実態に応じて、親子でぜひ取り組んでみてください。

昨年度の
耳の日行事の
入賞作品です。



おかあさんのこえを
きくために
まっちゃん
きこえるよ。

「ちがいで」って、すてきなことだよ

「ぼくは、大きくなったら、耳が聞こえるようになるだろうね。」
四年生の夏休みに、ぼくは、お母さんにこう聞きました。すると、「うん。聞こえるようにならないよ。」
と、お母さんは言いました。そのことを聞いて、ぼくは、とても悲しかったです。ショックでした。ぼくは、大きくなったら、お姉ちゃんみたいに聞こえるようになって思っていました。聞こえるようにならないことが分かって、くやしかったです。また、ぜんねんな思っていっぱいでした。
それから、しょうがいについて、考えるようになりました。二学期『ちがいで』ってなんだ』という本を読みました。この本には、いろいろなしょうがいについて書いてありました。とくに、「し覚しょうがい」についてきょう味をもちました。し覚しょうがいは、目が見えにくい人です。
みなさんは、点字ブロックを知っていますか。点字ブロックとは、し覚しょうがいの人が安心して歩けるように、道路やゆかにしかれているブロックです。ろう学校の周りにもたくさんあります。なぜだろうかと思っていました。お母さんから、今、ろう学校がある場所は、昔、し覚しょうがいの友達が通う学(もう学校)だったということを知りました。なるほどと思いました。ぼくは、し覚しょうがいについて、あまり知りませんでした。この本を読んで、しょうがいの、いろいろあることが分かりました。
この本の中で「もしも、ちがいがなかったら、世界はどうなるでしょう。」という文がありました。そして、「すべての人がケーキ屋さんになったら、材料を作る人がいなくなるので、ケーキが食べられません。」ということが説明してありました。ぼくは、この文章を読んで、「ちがいで」があることはすてきなことだと思いました。
ぼくは、ちょう覚しょうがい者で、耳が聞こえません。けれども、勉強をたくさんして、たくさんの人とおしゃべりができるようになりたいです。そして大きくなったら、仕事をたくさんがんばりたいです。